

金剛寶戒寺便り

十一月一日発行 第八号

檀信徒の皆さんこんにちは。秋もすつかり深まり、朝晩の鐘つきの時間も暗くなってきました。日中との気温差も大きいですが体調を崩されていませんか。

さて、先月ご紹介しました高野山結縁行脚の詳細が決まりましたので改めてご報告いたします。

日にち 平成二十六年十二月三日(水曜日)
時間 午後一時三十分より四時頃まで
場所 金剛寶戒寺 本堂に於いて

内容は「お大師様く弘法大師空海一代記」の深見博さんによる紙芝居。「祈念三鈷本尊」と、高野山の霊木を彫った全長一メートルの大三鈷杵(さんこしょう)「撫で三鈷」そして奥之院で永き星霜を護り続ける「不滅の聖燈」をお迎えしての「千巻心経」を予定しています。夕方四時には終了の予定です。

一応ここまでを高野山結縁行脚の法要として終わりますが、お題目にも有るように「行脚」です。次の会所となる荷揚町の福寿院まで希望者の方と約四キロの道のりを行脚したいと思っています。強制では有りませんが、途中までも結構ですので興味のある方、少し迷っていて当日の体調で決めたい方などは歩きやすい靴と服装でいらして下さい。きつと良い記念になると思います。また日中の法

要となりますが、その日の天候によつては気温がさがるかもしれませんので、温かい服装でお参り下さい。本堂にはストーブと椅子席も用意する予定です。お檀家様に限りませんので沢山の方のご参加をお待ちしております。尚、高野山結縁行脚は平成二十六年四月六日の北海道を皮切りに平成二十七年四月二日の高野山開創法会開白まで全国を行脚しており、その様子は各支所ごとにフェイスブックでも掲載されていますので、パソコンやスマートフォンなどインターネットに接続出来る環境に有る方は『高野山結縁行脚』で検索してみてください。お迎えの仕方はそれぞれですが雰囲気が伝わると思います。

ちなみに三鈷杵とは密教法具の一つで金剛杵の一種です。もともとはインドでの狩猟の時に使われる武器でしたが「強いもの」「堅固なもの」といったイメージから、魔を打ち砕く武器。悟りを妨げるものを払うという意味に転じ、法具となりました。これを持ってば障難を防ぎ祈願を成就出来ると説かれ密教では特に重要視されています。

月参りに伺っているとお墓の卒塔婆をお焚き上げして欲しいとお願いされる事が有ります。以前は二、三カ月に一度は卒塔婆のお焚き上げや供花などをお墓の入り口で燃やしていたのですが、自然環境への懸念や御近所への配慮から小まめにお焚き上げをし難い状態になっていきます。十二月三十一日の除夜の鐘

つきの折には市役所等にも通知を出して「どんど焼き」をします。その時に今までにたまった御札や卒塔婆もお経をあげてお焚き上げします。でもう暫くお墓に置いて下さい。また、除夜の鐘つきの時には国の重要文化財に指定されている御本尊 大日如来様も御開帳されますのでお参りにいらして下さい。

早いもので来月は師走です。厄除け星祭りのお札をお配りするのは二月ですが御札書きは年明けの一月から始めます。子供さんお孫さんが生まれた、結婚されたなど変更が有る方は早めに教えて下さると助かります。来年の厄年等は来月のお便りでお知らせいたします。

夜長の秋に竹内信夫著書の「空海思想」という本を手にしてみました。フランス文学・思想を専門に研究されている東京大学大学院教授の筆者が、これまでの信仰として「お大師様」の側面ではなく学術の面から「空海」の思想を説いており、興味深く久しぶりに本を読んでいます。

毎日のお勤めでは必ず「南無大師遍照金剛」と御唱えしますが、皆さんは「お大師様」の事をどの位ご存知ですか？結縁行脚での紙芝居は高野山高校の宗教行道部の部員が作成したものを大人の鑑賞にも堪え得る内容に編集し、侮る事の出来ない出来栄になっています。これまでの講演でも大変好評を得ています。どうぞ童心に帰りがご覧ください。